

このところ、地震・火災・台風などの防災対応が続いておりますが、ご協力ありがとうございます。今後も安全の確保に努めてまいります。

子どもの疑問を成長につなげよう

学校長 浅倉 勲

会話をするときには、互いに話し手と聞き手になるときが半分くらいになるよう心がけている人は多いと思います。しかし、気づいたら相手ばかりが話していて、自分はあまり聞いてもらえなかったなあと思うこともあるでしょう。「聞く」というのは、簡単に思われがちですが、実は我慢や気持ちの余裕も必要な行為です。自分が思う存分に言いたいことを伝えられたと思うときは、おそらく相手の方が聞き上手なのです。それは、家族や親子であっても同じことが言えるのではないのでしょうか。

週末電車に乗っていると、私の近くにいた親子の会話が聞こえてきました。3歳くらいの子供は電車で出かけるのが楽しいと思う一方で、ここぞとばかりにいろんな疑問を発していたようでした。「お母さん、なんでみんなスマホいじっているの?」「なんで、眠っている人もいるの?」「なんで、いろんな色の服着て人が多いの?」など。私は目を閉じたまま聞いていましたが、そのお母さんは全てに答えるわけでもなく、子供の疑問を引き出しながら、その後も見事な受け答えをしていました。

子どもの「なんで?」への対応は、**知識を教える『答える』**だけでなく、**気持ちを受け止める『応える』コミュニケーション**が重要と言われています。正解を伝えるだけでなく、子どもの探求心や会話そのものを楽しむ姿勢が、思考力と親子の信頼関係を育てるのです。改めて、私も心がけていきたいと思いました。

(精神科医:宮地尚子さんのコラム「人生が変わる聞き方」を参考にしました)



6月のトピック



校内研究授業(3年生)



自ら学ぶ子供の育成をめざし、自分の考えを深める活動と、伝え合い高め合う活動が展開されました。

校内研究授業(杉の子級)



友達と協力し合って支え合う活動を通して、思いを伝え合いながら、学びを深める姿が見られました。

ユメイク(5年生)



アスリートの方とふれあいを深め、夢を育てるための体験談を聞く貴重な機会となりました。